

藤原定明の謎解きシリーズ

ヤタガラス

と

古代の実像

1、古代の天文観測所の設計者とは
(星の暗号者・秘密結社ヤタガラス)

2、竹内文書について

3、古代の実像

1、古代の天文観測所の設計者とは (星の暗号者・秘密結社ヤタガラス)

◆ グラハム・ハンコック(『神々の指紋』の著者)の仮説

- ・1万2千年以上前に**高度な文明が存在**したが、地球規模の異変によって突然失われた
- ・この仮説を立証するために、彼はエジプトのピラミッドやスフィンクス、南米アンデスの神殿やメキシコのピラミッドなど、世界各地の古代遺跡を調査した
- ・その結果、それらの遺跡は現代の文明に匹敵するほど、高度なものだったことを明らかにした
- ・彼はそれらの遺跡を「**神々の指紋**」と呼び、それらは「**失われた文明を伝えた集団**」が残したものだと言主張

◆古代のインド神話

地球規模の**大洪水後に生き残った者たち**は、新時代に「一つの機関」あるいは「結社」によって**古代の知識を再び広めた**
(『神々の世界』グラハム・ハンコック)

◆竹内文書

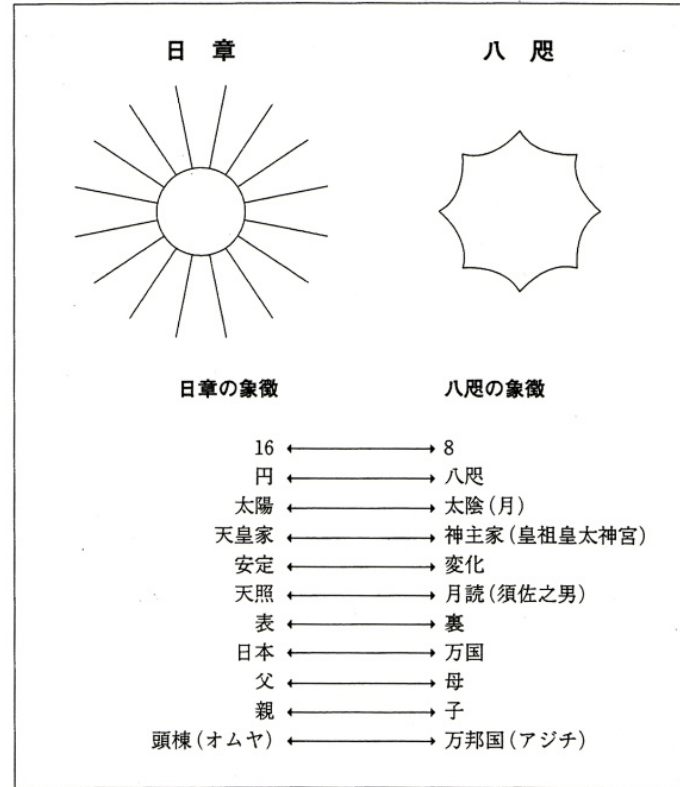
世界が「土の海」になるような大異変がかつて何度もあり、その度に日本の天皇（現人神）が世界各地に日本人を派遣して**世界を立て直し**、神聖政治によって**世界を平和的に統治**した

内宮＝日本国内を統治する内政機関

外宮＝外国を統治する外政機関

➡**古代の神宮＝世界の政庁**

◆八咫は月を象徴する 外宮＝月の宮



日章(表菊)と八咫(裏菊)は表裏一体の関係であり、象徴するものがそれぞれ違う。

(『[超図解]竹内文書Ⅱ』高坂和導著 徳間書店より)

つちみかどかねつぐ

◆土御門兼嗣(秦氏の末裔、秦氏の棟梁)氏の発言

「日本からエジプトに行ってピラミッドの建設に携わり、再び日本に戻ってきた」(『サムライ開運法』(株)ヴォイス)

◆古代の天文観測所の設計者の正体

(星の暗号者・秘密結社ヤタガラス)

世界が「土の海」になるような大異変の時に、

日本の「失われた文明」と**神の教え(世の元の教え)**を

世界中に広げて世界を立て直し、その後、世界統治の

ための外政機関である**「外宮」(月の宮)**の担当者にな

った

2、竹内文書について

- ・第25代武烈天皇（在位期間498年～508年）の命令で、外国勢力から「古代の神宮」の神宝と古文献を守り隠すために、宮司であった竹内家が富山県に逃れて代々受け継ぎ守ってきたもの
- ・外国勢力の手から逃れた『竹内文書』は、文献類の^{そんしょう}損傷を防ぐために、4代ごとに書き写すといういい伝えにより、選ばれた者が代々受け継いできた
- ・『竹内文書』を世にだしたのは、初代の^{たけのうちすくね}竹内宿禰から数えて、66代目の子孫とされている竹内^{きよまる}巨磨

- ・彼は明治7年に富山県で生まれた
- ・祖父の代まで竹内家は比較的裕福だったが、父の代に
ひっそく
逼塞してしまい、彼が15歳の時、祖父から竹内家の秘密を
教えられ、それらの神宝を世にだすために上京
- ・その後、神宝類や古文書を公開
- ・神宝類の中には、ヒヒイロカネという古代の錆びない鉄で作られた剣や鏡、古代の世界地図も含めて数千点に及ぶといわれている
- ・軍国主義の台頭で、昭和11年、天皇家の系譜を捏造した^{ねつぞう}として彼は起訴されるが裁判では無実の判決がでた

- ・裁判の証拠として押収された神宝類と古文献は裁判後も返還されず、昭和23年3月の東京大空襲によって焼失してしまった
- ・現在『竹内文書』と呼ばれるものは、巨磨自身が書き写したものを編纂した『^{かみよ}神代の^{ばんこくし}万国史』や、弾圧下でひそかに配布された写本などのなかに面影を残している

(『日本ピラミッド超文明』 伊集院卿・大平光人共著 学研)

(『[超図解]竹内文書』 高坂和導著 徳間書店)

◆『竹内文書』にも、暗号者が関わっていた

- 『竹内文書』は史学会では偽書とされている
- 『神代の万国史』を読ませてもらったが、年代などは信じられないし、矛盾や疑問に思うところも多い
- しかしこの後、『竹内文書』が偽書でないことがわかった
- 『竹内文書』が偽書とされる裏には、**秘密結社「ヤタガラス」**が関わっていた
- 竹内巨磨は『竹内文書』の公開に先立って、**古来からの決まり事**として、ある人物に報告と承認を得るために、京都の鞍馬の某所でその人物と会った

鞍馬寺



鞍馬天狗



- ・この話合いは困難を極め、都合2回の会談で、最終的に原書の骨子はそのままでも良いが、改ざん部分を付け加えることが承認の条件として提示された
- ・相手のいうことを聞かず、そのまま『竹内文書』を世に出せば、おそらく『竹内文書』は永久に失われ、巨磨の屍が加茂川に浮かぶ可能性すらあった
- ・その相手とは裏の掟で、たとえ口がさけてもいうことが出来ない人物
- ・その人物の所属している集団は、時代が変わっても、何ら動じない裏神道の要とされる集団

- まっりごと
- ・ 政の権力者はどの時代にも現れて消えていくが、彼らは権力者にくみすることなく昔からの決め事を守り通し、**時期が来るまで「封印」を解かない役目**を担っている集団、すなわち、それは**秘密結社「ヤタガラス」**

(『「竹内文書」と月の先住宇宙人』飛鳥昭雄著 徳間書店)

※『竹内文書』が偽書とされる裏には**秘密結社「ヤタガラス」**の**関与**があり、それが、『神代の万国史』に疑問点や矛盾点がある理由

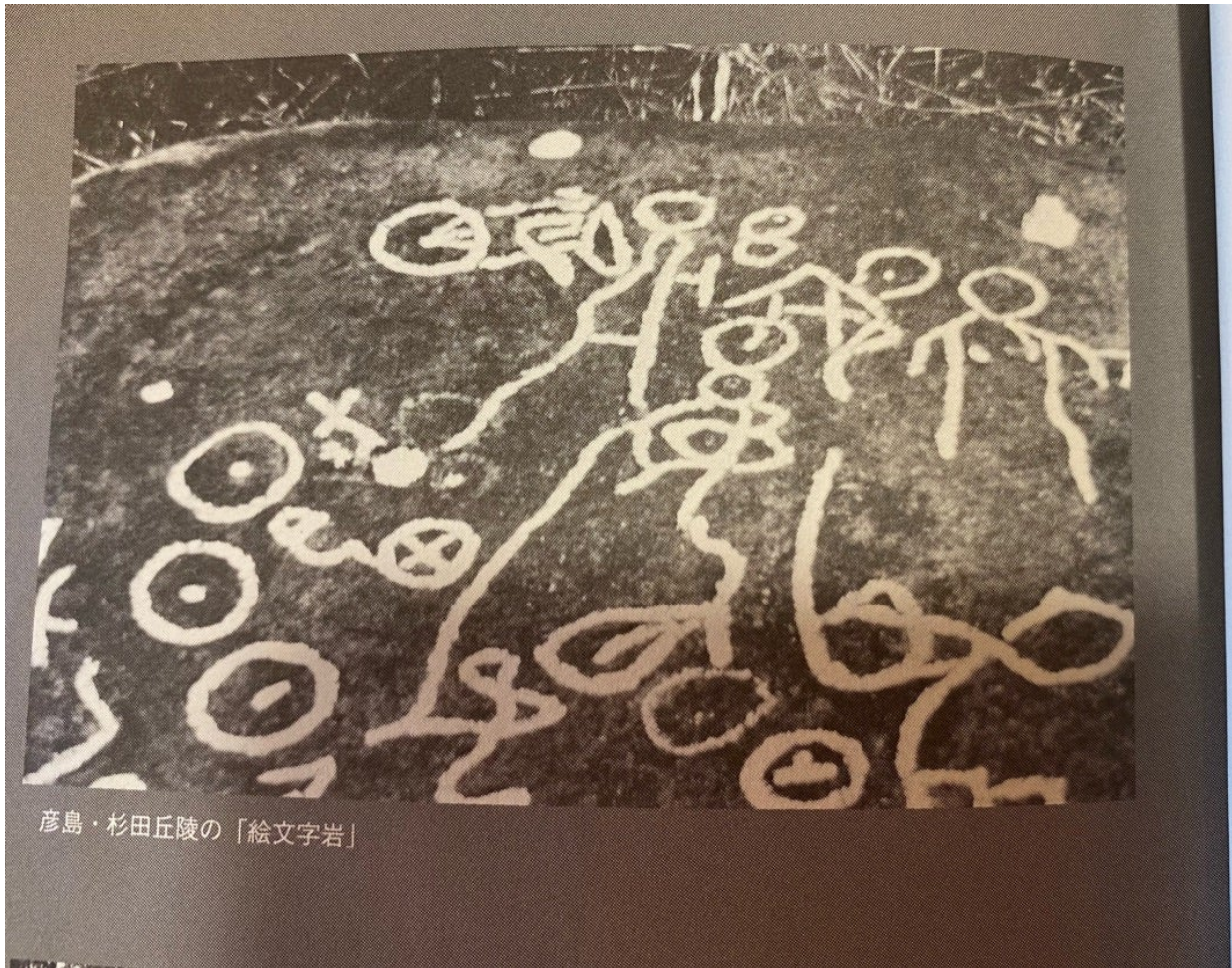
〈私の見解〉

- ・私は数千点にも及ぶ神宝類から判断して、それらは「古代の神宮」の神宝と古文獻だったと思っている
- ・私は世界の盟主としての日本の存在、日本の「古代の神宮」が「世界の政庁」として機能していたなどの核心部分は、歴史的事実を反映したものだと見ている
- ・古代の日本が世界の盟主だったことは、『竹内文書』だけでなく、その他多くの「古史古伝」にも伝えられている
- ・代々秘密に、しかも家宝のようにして大切に守られてきた多くの「古史古伝」が、全て創作とは考えにくい
- ・子孫に伝え残すために、隠したものと思われる

3、古代の実像

ペトログリフ(絵文字)が示す「古代の実像」

- ・アメリカ大陸で発見された先史時代の絵文字(ペトログリフ)と同じものが、世界各地に存在する
 - ➡「世界は一つの言葉と宗教で結ばれ、世界中を自由に移動していた時代があった」(アメリカ文化学会ジョセフ・マーハン会長)
 - ・日本から、ペトログリフの成立起源にさかのぼるような、極めて古いペトログリフが発見された
 - ➡日本で生まれたペトログリフがシュメールに伝わり、後にフェニキア文字となり、それがローマ字に変化してヨーロッパに伝わり、英語やフランス語やドイツ語になったのでは？
- (『超古代日本語が地球共通語だった』吉田信啓 徳間書店)



彦島・杉田丘陵の「絵文字岩」

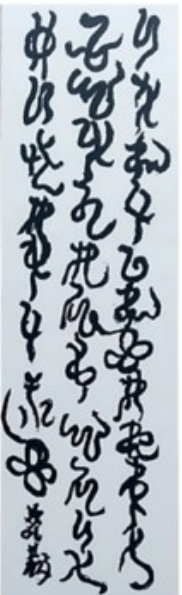
彦島のペトログリフ

かみよ
「**神代文字**」が示す「**古代の実像**」

- ・「神代文字」とは、漢字が伝来する前の日本の文字
- ・伊勢神宮の「神宮文庫」には、「**神代文字**」で書かれた**奉納文**が実際に存在する（奈良時代から江戸時代にかけて、伊勢神宮へ参拝した著名な指導者のもの）
- ・高橋良典氏は、江戸時代の国学者平田篤胤あつたねの「**神字日**
文伝ふみつたえ」の中で説明されている文字コードを使用して、その奉納文を意味の通る日本語に翻訳した

（『漢字を発明したのは日本人だった』高橋良典監修 幸沙代子著 徳間書店）

源義経



うねひやま ひるはくとみゆうみれは かせふかむとそこのはさやける (阿波文字)

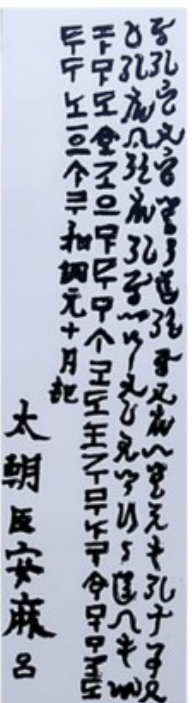
源頼朝



ひつきみこと みなもと よりとも

おおのあそんやすまろ

大朝臣安万呂



大朝臣安万呂

またあかあし みへのまかりなして いたくつかれたりとのりたまひきかれそこを みへといふ (阿比留草體)

ひえだのあれ

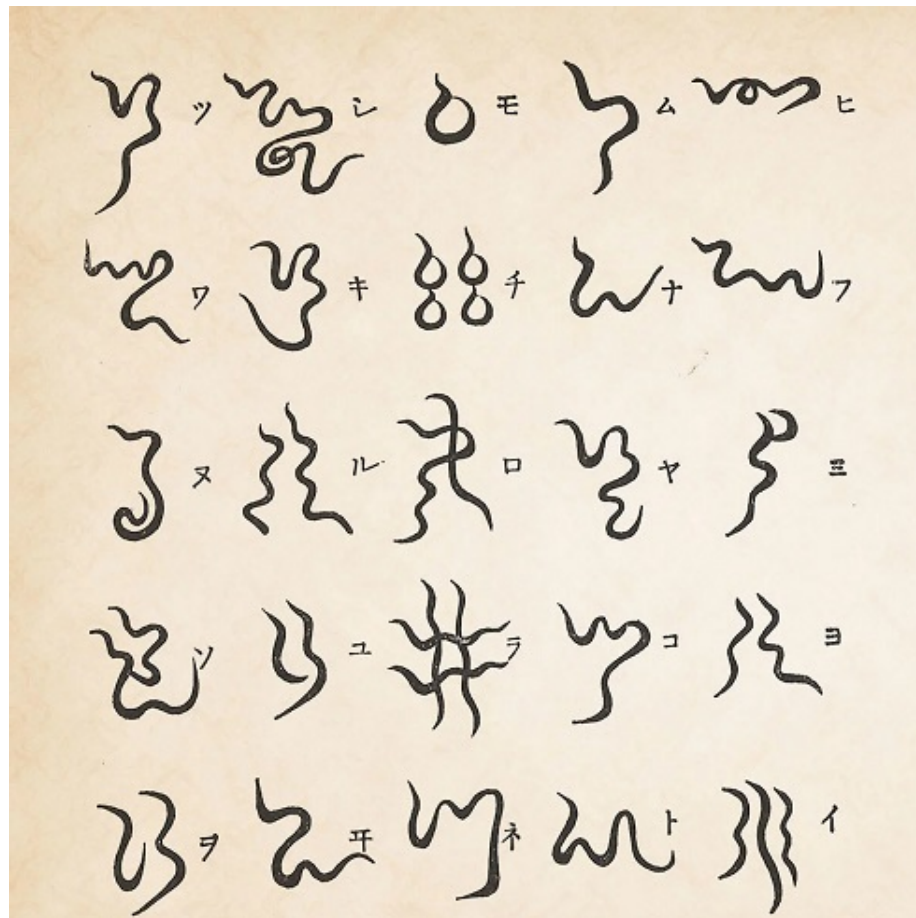
稗田阿礼



右 なつきのたのいなからに いなからにはひもとろふとろつらあさしぬはらこしなつむそらはゆかすあしよゆくな (アヒル文字)

左 やまとほこあまつみしるとよくになるひめみこと (アヒル草文字)

あひるくさ
阿比留草文字



阿比留文字

ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ	
ㄩ	ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅝ	ㅟ	ㅛ	あ
	ㅣ	ㅓ		ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅝ	ㅟ	ㅛ	い
		ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅝ	ㅟ	ㅛ	う
	ㅓ	ㅑ		ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅝ	ㅟ	ㅛ	え
	ㅣ	ㅓ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅝ	ㅟ	ㅛ	お

秀真文字

わ	や	さ	ら	た	ま	な	は	か	あ	
夕	㊦	㊧	㊨	㊩	㊪	㊫	㊬	㊭	㊮	あ
	㊯	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	い
㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㋀	㋁	㋂	う
	㋃	㋄	㋅	㋆	㋇	㋈	㋉	㋊	㋋	え
㋌	㋍	㋎	㋏	㋐	㋑	㋒	㋓	㋔	㋕	お

〈解説〉

- ・日本には、縄文と弥生の2種類の土器が存在する
 - ・弥生期に、中国大陸や朝鮮半島から、多くの人々が日本列島へ渡来
 - ・渡来人によって樹立されたのが「大和朝廷」
 - ・「大和朝廷」によってそれまで使用していた文字から、新たな文字、すなわち「漢字」を使用するように強要された
- ➡ヨーロッパの移民が建国した「アメリカ合衆国」が、原住民のアメリカインディアンに、英語を強要したのと同じ

日本語が示す「古代の実像」

◆アメリカインディアンの部族名やアメリカ大陸の地名に、
日本語が使用されている

- ・「アルイテ族」……………彼らがベーリング海峡を歩いて渡ってきたことに由来する
- ・「オサゲ族」……………おさげの髪形に由来する
- ・「トムカワ族」……………「富む川族」
- ・「タマウリペック族」…玉を売っていた部族
- ・「オジオバ族」……………「伯父伯母族」

- ・「オタワ族」……………「^お居ったわ族」
- ・「マケンズエ族」……負けず嫌い
- ・「キヨワ族」……………気の弱い
- ・「アブナキ族」……………危険なところにいる
- ・「アルアシカ族」……アシカのいるところに住んでいた
- ・「エスキモー」=「^え餌す肝」(エスキモ)……肝を食べる部族
- ・「ミシガン」=「道鴈」……「鴈が通る道」

※この他にも、多くの部族名に日本語が使用されている

(『竹内文書 超古代アメリカに行く』高坂和導著 徳間書店)

◆メキシコの「太陽のピラミッド」がある「テオティワカン」も日本語

・「テオティワカン」の元の地名は「ティオティホカン」

・「ティオ」は「天」を表し、「ホカン」は「宝冠」、つまり王様の^{かんむり}冠を表している

「『ティオティホカン』

➡支配者が死んだら、天国に上がって王になることを意味する

(『古代アメリカは日本人だった！』ドン・R・スミサナ著 徳間書店)

◆クukulカンも日本語



春分の日、クukulカンの神殿には龍神の姿が現れる

クukulカンの神殿

・クukulカン → 括る環 → 「大きな和」

〈参考〉

・「オオキワス」⇒「大きく和す」

(北アメリカのインディアンのポータハン族が、古代に信仰した神)

・「オキクルミカムイ」(日本のアイヌの神) ⇒「大きく^{くる}包む神」

・沖縄＝「大きな和」

・台湾＝「^{たいわ}大和(ん)」

※「大きな和」＝日本の国名の「大和」

(『竹内文書 超古代アメリカに行く』高坂和導著 徳間書店)

- ◆「ケツアルコアトル」(「ククルカン」の別名)も日本語
「ケツ」=「お尻」⇒「最後」
「ケツアルコアトル」・・・「**ケツ有る怖取る**」
⇒最後は有るが、その恐怖を取り除く

〈参考〉

- ・マヤの伝承では、「ククルカン」がマヤ人に「暦」を教えたことになっている
- ・その「マヤカレンダー」には最後の日が見られているが、それは「最後はあるが、その恐怖を取り除く」
- ・マヤ人に「カレンダー」を教えた神「ククルカン」を、アステカ人は「ケツアルコアトル」と呼んでいる

〈その他〉

- ・アステカ⇒「**明日照るか**＝あすて(る)か」
- ・南米ペルーの「インカ」⇒「**隠家**」
- ・「マチュピチュ」⇒「**町宇宙**」(マチウチュウ)
(インカ人がつくった、標高2400メートルにある空中都市)



「クukulカン」の伝承が示す「古代の実像」

マヤに残されたクukulカン伝承は、クukulカンとはマヤ地方を立て直すために、日本から派遣された人たち（星の暗号者・世界の天文観測所の設計者）であることを示している

◆マヤ研究の第一人者(シルバナス・グリスウォルド・モーリー)

の見解

- ・偉大な神ククルカンあるいは『翼ある蛇』は、偉大な組織者で、町をつくり、文字をもたらし、**カレンダーを発見**し、人々に石積みと建築技術を教え、数学、天文学の父だった
- ・また、生産性の高い農業を広め、偉大な医者であり、薬の大家で「植物の特性について教えた」といわれ、「**地球を計測した**」と言われている
- ・この人物の業績は、死んだあとも長く語り継がれ、最終的に神格化された(『神々の指紋』グラハム・ハンコック)

〈解説〉

- ・マヤカレンダーを設計したのは「星の暗号者」
 - ・世界に、計画的に設置された天文観測所の設計には地球の計測が不可欠
 - ・「ククルカン」は日本語で意味が通じ、しかも、日本の皇室の紋章を背負っている
- ➡「ククルカン」はマヤ地方を立て直すために、日本から派遣された人たち（星の暗号者・天文観測所の設計者）

縄文土器が示す「古代の実像」

◆縄文土器が世界中から発見されている

・南米のエクアドル、バルデバンベブの遺跡から、縄文土器が発見された

➡この土器は日本の縄文土器をルーツにしている(スミソニアン・インスティテュートのエバンス博士)

・南太平洋の島(バヌアツ共和国)から、日本の縄文土器が発見されたことが、平成18年8月14日の、「読売新聞」の夕刊に掲載された

➡土器分析の権威、ウィリアム・ディキンソン(米アリゾナ大学名誉教)がこの土器の成分を分析。この土器には、この島には存在しない鉱物添加物を含み、それは日本の青森県から出土した縄文土器と、同じ成分であることが判明

〈その他〉

- ・エクアドル、チリ、ジャワ、メソポタミア、エジプト、中国、ケニア、ハンガリー、アメリカなどの世界各地から、日本の縄文土器とよく似た土器が発掘されている

➡縄文土器のバリエーションだと考えられている

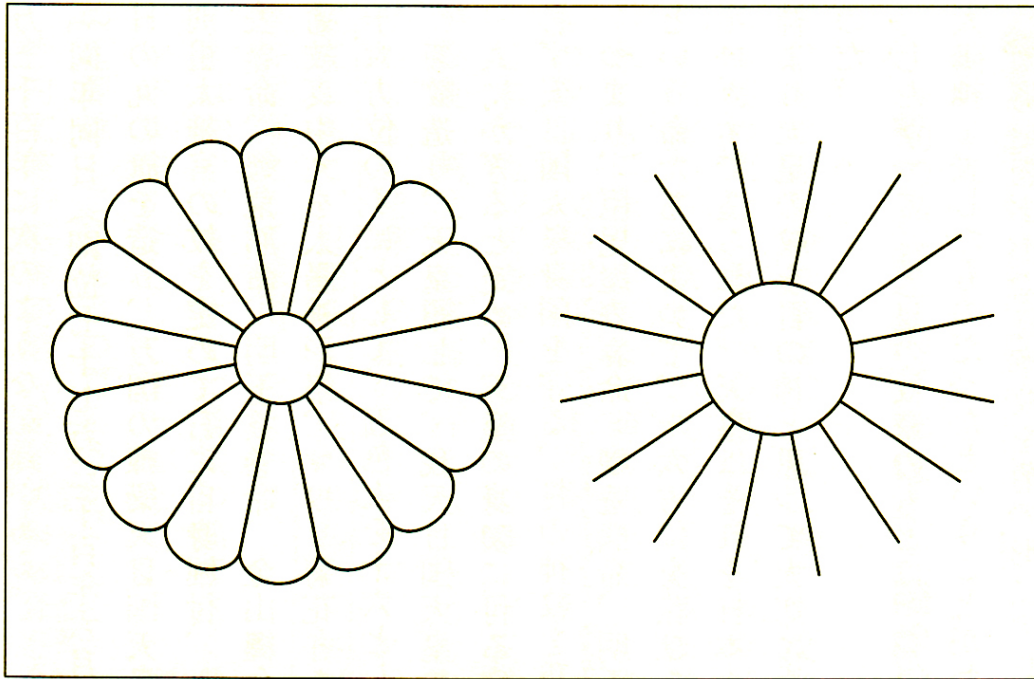
(『竹内文書 超古代アメリカに行く』高坂和導著 徳間書店)

「十六菊花紋」が示す「古代の実像」

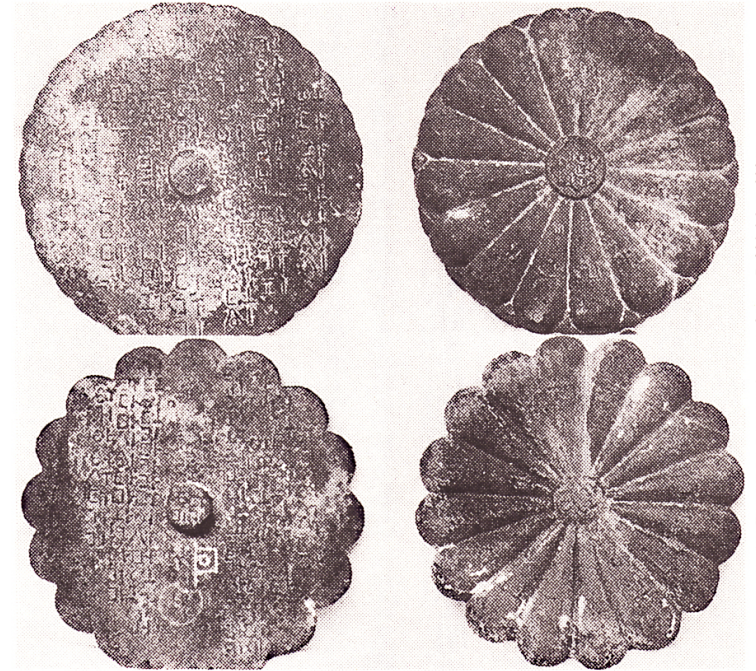
◆『竹内文書』には、日本の皇室の紋章が「十六菊花紋」になった理由が記されている

※上古第二代の天皇が、地球を16方位に分割して治めたことに由来

※16人の皇子、皇女を世界の16か国に派遣した

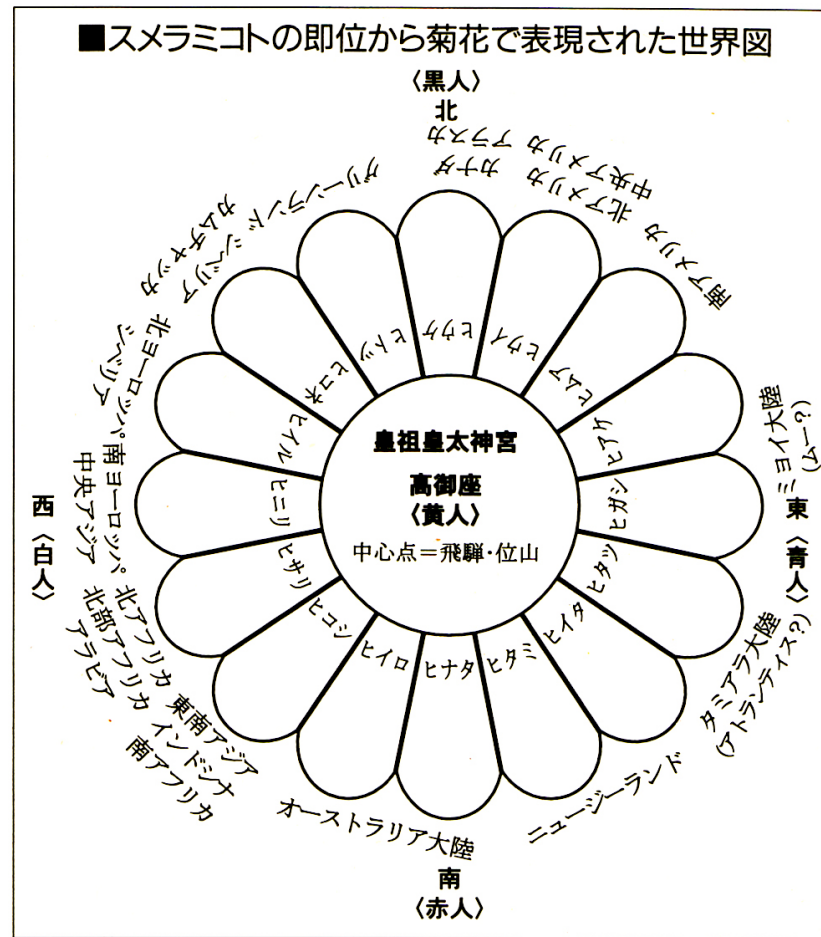


丸に十六光条の日章紋が、十六日章菊形紋へと変化していった。



◀皇祖皇大神宮に伝わる「ヒイロカネ」製の菊花紋鏡

(『[超図解]竹内文書Ⅱ』高坂和導著 徳間書店)



(『[竹内文書]が明かす 超古代日本の秘密』竹田日恵著 日本文芸社)

◆日本の皇室の紋章(十六菊花紋)が世界中の存在

- ・マヤ パレンケの壁画

- ・新バビロニアのネブカドネザル2世(BC604~562)が、首都バビロンに建設した城壁門(「イシュタル門」)

- ・ユダヤ人が聖地回復の祈りを捧げる習慣からその名がついた「嘆きの壁」

- ・古代エジプトのラムセス二世(BC1289~1224)の妻の像の胸部

- ・古代エジプトのプスセンネス一世(BC1070頃)の、ミイラが履いていた黄金のサンダル(同様のサンダルは、ツタンカーメン王(BC1342~1324)の墓からも発見されていて、それは、歴代の王の葬祭用^{そうさい}に用いられたと考えられている)



マヤ・パレンケの壁画と高坂氏

◆イシュタル門(バビロン)



バビロン、イシュタル門に続く行列道路には、十六日章菊形紋が無数に描かれていた。

◆アテネ博物館にある牛



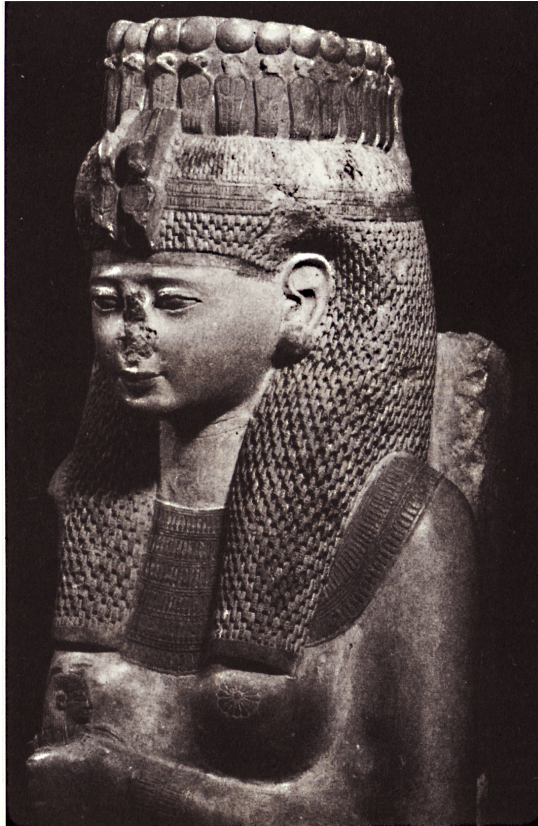
アテネ博物館にある牛。頭部にあるのは十六日章菊形紋だ。

◆嘆きの壁(ユダヤ教の聖地)



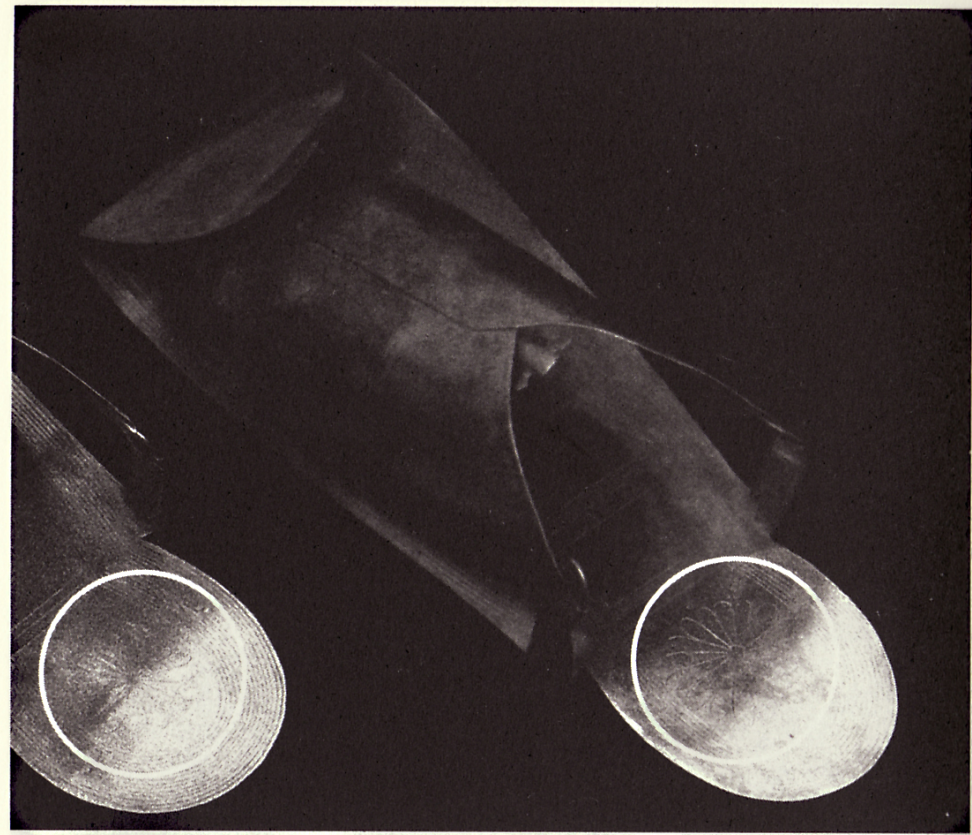
ユダヤ教の聖地として有名な嘆きの壁にも、十六日章菊形紋がある。

◆ラムセス2世



ラムセス2世の妻の胸像。乳首の装飾の形にご注目いただきたい。

◆エジプトのミイラのサンダル



プセンネス1世のミイラが履いていたサンダル。カカトの部分にあるのは……。

(『[超図解]竹内文書Ⅱ』高坂和導著 徳間書店)

かつとき

酒井勝軍の研究による「古代の実像」

- ・酒井は明治6年山形県で生れ、キリスト教の牧師になった
- ・ユダヤとフリーメイソン、古代イスラエル史、カバラ等の起源の研究を重ねる
- ・陸軍参謀本部の依頼で、シオニズム運動の調査のため昭和3年にパレスチナに派遣される
- ・エジプトにもかなりの期間滞在してピラミッド研究に没頭

かつとき

◆酒井勝軍の見解

「ピラミッドは2万年から3万年前の日本で発祥し、**エジプトのピラミッドは古代の日本人が設計し、現地のエジプト人を動員して建設した**」

「スフィンクスは、ピラミッドの建造者が誰であることを示すだけでなく、再び、**東の国からメシアが現れるのを、今か今かと凝視しているものである**」

(『日本ピラミッド超文明』 伊集院卿・大平光人共著 学研)

(『日本超古代遺跡の謎』 鈴木旭 日本文芸社』)

スフィンクス



〈参考〉

◆マネトーの伝承(紀元前3世紀のエジプトの歴史家・神官)

「東方より不思議な方法でやってきた高貴な人々が、
エジプトにピラミッドを残して去って行った。**その人々の
子孫**がエジプトを逃れて**エルサレム**という都市を建てた」

(『日本超古代遺跡の謎』 鈴木旭 日本文芸社)

◆フランスの考古学者ヴァーレン博士の見解

(ギザの「三大ピラミット」に初めて科学のメスを入れた考古学者)

スフィンクスの両前足の間から発見された、30センチメートル四方の石碑に刻まれた古代文字を

「東方に日の国(太陽神)の神殿がある」と解読

(『日本超古代遺跡の謎』 鈴木旭 日本文芸社) (「サンデー毎日」1985・1・21号より)

- ・その後、博士は自説を立証するために来日
- ・飛騨高山の位山に登った時、「ここが、スフィンクスの石碑に書かれた太陽の神殿である」と語った

※位山の麓のスキー場には、自然に出来たとは思えない、長さ6メートル幅4メートルのきれいな四角形の巨石が階段状になっているところがあり、位山を調査した上原清二氏によると、「それは祭壇石で、山の頂上には巨石郡の祭祀遺跡があった」と報告している

(『日本超古代遺跡の謎』 鈴木旭 日本文芸社)

位山の祭壇石



位山のイワクラ

